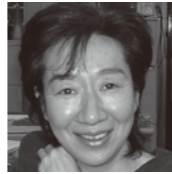


かたりば通信 ～震災を生き抜いて～ 7 2011

連絡先 〒113-0023 東京都文京区向丘1-7-8 電話 03-3830-5285 Email: office@risetogetherjp.org twitter: @risetogetherjp http://www.risetogetherjp.org/

見えないけれど 重要なことを見えるように

共同代表 竹信三恵子 (ジャーナリスト、和光大学教授)



東日本大震災の直後、私は新聞記者でした。すさまじい規模の災害に、何を書いても無力な気がして、文章を書けなくなりました。その中で自分がかるうじてできること、として、とりあえず書いたのが、女性や障害者、路上生活者など声を出しにくい人々のニーズをすくいあげられる支援の呼びかけでした。

周囲からは「大変なことに男女差はないのに、なぜ女性の支援なのか」と言われました。でも、3月いっぱい大学に転職して個人として被災地を回り、被災女性の生の声を聞き、女性特有の大変さ

が存在することを、実感しました。避難所暮らしでも平常心を保つために必要な化粧品や、安心して着替えるために必要な間仕切りなどについても、わがまま、ぜいたく、といわれいかと心配で要求できない女性たちが多数いました。炊事当番など、女性だけに割り当てられる仕事の負担に疲れ果てている人もいました。

避難所暮らしでなくても、原発事故で避難してきた親族のケアと仕事の二重負担に苦しむ人、原発事故への不安ですさんでいく家族への対応に悩みながら、「農家の嫁は恥を外にさらすな」という戒

めの下で相談相手もなく悩む人がいました。「女性の仕事」とされた役割の負担が被災によって膨れ上がり、重くのしかかっていたのです。

こうした見えないけれど重要なことを見えるようにし、当事者の方々がその解決へと立ち上がっていけるための手助けこそが、よりよい復興につながると感じました。

女性支援ネットは、そんな問題の解決のため、同じ思いを抱く人々をつないでいく役割を果たしたいと思います。みなさんのご参加やご協力を、心からお待ちしています。

スピードを上げて 被災者の生活復興を！

共同代表 中島明子 (和洋女子大学教授)



大震災から4か月が過ぎました。復興構想会議の提言も出された今、何が必要でしょうか。その1つはこれまでの何十倍ものスピードで被災者への生活復興支援を行い、そこから未来への希望を見出すことです。もう1つは女性視点で被災者の困窮実態を掴み、子どもから高齢者にわたる多様で隠れた要求を引き出し、支援につなげることです。3つ目は今後の復興の全プロセスにおいて女性の参画

を行うことであり、喫緊に実現してゆきたいということです。注意したいのは、今回の震災復興では、雇用は重点的に取り組む課題ではあるが居所の確保より先にあるのではなく、その順序を間違えてはならないということです。東日本大震災では津波により漁業や関連産業が壊滅状態になる等、仕事を失った人々が多くいます。このことから「住宅より仕事の復興」という議論もあります。しかし、

何よりもまず生きる基盤となる居住の場の質の向上と、安心して住める居所の確保に全力を尽くす必要があります。居住の場はどの段階においてもプライバシーと衛生状態を向上させ、必ず共同の場を備え、地場の建材を活用する等、地域経済と雇用創出の場として位置づけることです。そこに普遍的なまちづくりの手法がみられ、この道筋からこそ地域の将来像を語る事ができるのです。

東日本大震災女性支援ネットワーク チーム紹介

支援チーム

被災当事者のみなさんとりわけ女性や子ども、外国籍の方などの「多様なニーズ」に応える支援団体を応援したいと考えています。被災地の女性支援団体の皆さんと相談し、現地の団体を受け入れ先として人材とスキルの提供を行う、女性が女性を支援する取り組みをはじめることになりました。募集の詳細は事務局まで

office@risetogetherjp.org
03-3830-5285

また、被災地の女性支援団体と地域外の団体とのコーディネーションもお手伝いします。

調査チーム

現在、支援経験者への聞き取り調査と、日本ではあまり例のない参加型アクション調査(フォトボイス)を実施しています。震災時や震災後に見たことや経験したことを被災した女性たちや支援活動に関わる女性たちに語ってもらい、幅広い視点から深みのある信頼性のあるデータを収集しています。調査参加者自身が、支援や復興(生活再建・まちづくり)のあり方の問題点を分析し、避難生活やその後の生活環境改善に向けた対応策を提案することにつなげていきます。チームとしても災害防止、支援、復興政策にジェンダー視点を反映する政策提言やガイドライン作成に結びつけていきます。

ボランティア募集中

東日本大震災では現在多くの女性たちが避難所や仮設住宅で生活しています。すでに4ヶ月が経過し、多くの皆さんがストレスや不安に悩んでおられます。こうした女性たちにどうしたら力になれるのでしょうか。私たち「東日本大震災女性支援ネットワーク」では、被災地の女性支援団体と相談して、「被災地の女性の皆さんにリラックスしてもらえ時間を作るためのボランティア活動」に取り

メディアチーム

被災地では、避難所であれ復興の場であれ家庭内の決断の場であれ、発言権や決定権は男性にゆだねられている場合が多く見られます。彼女たちが意見を主張することも許されない風潮や文化もあるのは日本社会全体も同様ですが、そのなかで女性たちが自分の意見を発表する力を得たうえで、さまざまな形態のメディアを活用していけるように支援します。媒体には、写真や記事、インターネットテレビやラジオがあり、これらを活用できるようワークショップも開催していく予定です。

東日本大震災 女性支援ネットワーク

東日本大震災を契機として生まれた、被災女性支援のための幅広いネットワーク。4つのチームで構成され、被災女性及び障害者や外国籍市民などの少数者の人権を守ることを目標として活動しています。被災地のみなさんが主体となって活動できるように、さまざまな分野での支援企画を実施しています。

研修チーム

震災支援の中に、ジェンダー・多様性への配慮を主流化させることを目的に、現地で支援活動に従事するNPOやNGOに対して、事業計画や現場での工夫、モニタリングや評価の方法を提案します。また、ボランティアの派遣・調整・受け入れ団体には、対人支援やチームで気持ちよく働くためのコツを伝える研修を実施します。震災支援に関わる様々な団体と協働することで、ジェンダー・多様性配慮が多くの団体の活動に実際に取り入れられることを目指します。

※次回から各チームの情報を随時紹介していきます

組もうと考えました。

「女性が女性を支援する」という視点を持って、女性が一人でも安全に参加できるボランティア活動の場を作りたい、そんな思いで「女性支援2泊3日プロジェクト」がスタートします。たくさんの皆さんのご応募をお待ちしております。

お問い合わせは下記当ネットワークの支援チームまで
office@risetogetherjp.org



『かたりば通信』では、被災地で生活するみなさんからの記事、映像、川柳や短歌、詩などを募集しています。今後、応募された作品でコンテストなども開催予定です。作品は、東日本大震災女性支援ネットワーク・メディアチームまでお寄せください。
Email: office@risetogetherjp.org Fax: 03-3830-5285

かもめの玉子

かもめの玉子を生産・販売するさいとう製菓株式会社は、設立60年を誇る。工場と5店舗が今回の津波で深刻な被害にあったが、工場は4月7日に修理を終え、同月20日に再稼働することができた。通常であれば毎日1万4千個を生産するが、現在はその半分の生産量にしか到達していない。

災害でまた少し強くなって恩返しを：女川町第一中学校生徒

3月11日の甚大な東北地震と津波に見舞われた女川町第一中学校から、女子生徒たちが上京し、7月7日都内で開かれた記者会見で海外メディアに被災地復興への抱負を語った。

15歳の生徒会員は「4月半ばに学校が再開した時は、みんなすごく嬉しかったです。一度は壊されたけれど、日常が再び戻ってくる兆しだと思ったから。日本全国だけでなく世界から届いた、たくさんの寄付と惜しみない結束力があってこそ、私たちは前に進むことができます。いま、自分たちが前に進むことによって、さらに強くなり、人々の親切に恩返ししたいです」と語った。

宮城県東部に位置する女川町は、人口一万人を抱える景色の良い漁業の町である。運命のあの日、800人以上もの住民が亡くなり、町では八割近くの住宅が損壊あるいは完全に流された。震災後、町は急速に復旧しており、避難所の生活者は251名に減少したという。現在、政府予算では安全な町づくりに向けた再興が計画されている。女川町の学校関係者や生徒は、学校を中心とした防災や災害復旧の政策を地元自治体に押し進めてほしい、と話した。あの日に町を破壊した18メートルの津波からも守られるよう、新しい校舎は高台に建てられる予定だ。



女川町第一中学校を代表して会見した生徒たちは、将来の展望を語り、震災後に作った俳句や絵を披露した。また、危機の最中でも希望を失わないこと、互いに助け合い、地域のために行動するよう学ぶことの大切さについても触れた。被災後の女川町に思いやりの社会を創るため尽力したいと語る女子生徒たちに、集まった報道関係者は多くの尊敬の念を抱かずにいられた。

NPO法人しんぐるまざあず・ふぉーらむ

NPO法人しんぐるまざあず・ふぉーらむと、しんぐるまざあず・ふぉーらむ・福島では、5月の連休に引き続き、シングルマザーレスパイトデイズを行います。レスパイトとは、一休みの意。震災と原発事故後、放射能汚染で緊張した日々を送るシングルマザーと子どもたちが思い切りリラックスし、外で遊べる日を過ごしてもらう予定です。オックスファムと東洋大学の協力で7月16日～18日に行います。シングルマザーと子どもたち約50人が参加予定です。しんぐるまざあず・ふぉーらむはホットラインと現地支援、県外避難者のためのほっとサロンなどを行っています。

自分を見つめる
川柳で癒されよう

- 海に家船首田んぼに突き刺さる
- 嘘合戦地獄の底の高笑い
- SV(シールド) BQ(ベクレル)わかるこの不幸
- 逃げたくも原発だらけ地震国
- ここに棲み汚染を浴びて生きてやる
- フクシマの地にひまわりの希望咲く

わから愛 白真弓

記者会見 + 「おんなの語り場 東日本大震災 Vol.1」インフォ

報道関係者 各位

2011.7.15

「おんなの語り場」実行委員会

「おんなの語り場」記者会見

宮城県内の被災各地で女性支援に取り組むグループ「みやぎジョネット」の呼びかけで、被災地の拠点をつなげ、女性たち自身が震災被害や避難所生活、復旧作業などについて語りあう「おんなの語り場（かたりば）」実現のための実行委員会を6月に立ち上げました。

第一回「おんなの語り場 東日本大震災 Vol.1」を7月24日に開催するに先立ち、下記のとおり記者会見を行います。被災地の女性たち自身の発信を広く社会に届けるために、記者会見のご出席ならびに当日の取材をどうぞよろしくお願いいたします。

記

- ★日時 2011年7月22日(金) 16時～17時
- ★場所 仙台市役所 記者クラブ (市役所3階)
- ★出席者 八幡悦子 (ハーティー仙台)
草野祐子 (みやぎジョネット)
下山うめよ (南三陸町 元避難所生活者)
- ★連絡先 office@risetogetherjp.org
090-9975-0848 (松元)

主催： 「おんなの語り場」実行委員会
協賛： 東日本大震災女性支援ネットワーク

※「おんなの語り場」は東日本大震災女性支援ネットワーク (<http://www.risetogetherjp.org>)の協力を得て開催しています。

「おんなの語り場」について

- 日時 2011年7月24日(日) 13:00～15:30
- 会場 ホテルメトロポリタン仙台 4階「千代」
仙台市青葉区中央1丁目1-1 (電話:022-268-2525)
- 「おんなの語り場」は、仙台市、南三陸町、女川町、郡山市などで被災した女性たち200名ほどが集まり、それぞれが直面する女性特有の問題などについて思う存分語り合う機会です。メイン会場には大型のビデオスクリーンを配置して、「顔の見える」場を設定します。会場に来られない女性たちとはSkypeを使ってつなぐ予定です。過去に起こった阪神淡路大震災や海外での自然災害では、女性が災害による被害だけでなく、それに起因するさまざまな問題の被害にあうことがわかっています。「おんなの語り場」は、これまで必要とところに届いていなかった支援について声を集めることで、今後の支援のあり方などを検討し、地方自治体や政府に伝え、より良い被災者支援の実施につなぐこと、そして女性たちがこのイベントで得た人的ネットワークを今後も生かしていけることを目的としています。